

街を行く

第95回 所沢 Tokorozawa

空の「ロマン」がいっぱい

所沢と聞いて何を思い浮かべますか？ここに本拠地を置くプロ野球チームの西武ライオンズとお答えになる方が多いかもしれません。でも歴史を紐解くと、所沢は「航空発祥の地」というもうひとつの顔があります。飛行機の歴史は、人類が抱えてきた「空を飛ぶたい」という素朴な願望に始まり、今や制空権を支配する近代兵器として、物流や旅客産業を支える輸送機として活躍しています。文明の発達にしたがい空を飛ぶ夢は、生活や産業の質や効率性を上げた一方でさまざまな破壊ももたらしてきました。ただ、市内の航空公園駅前にある「所沢航空発祥記念館」には、「大空を自由に飛ぶたい」と願う素朴な人の想いが漂っていました。

日本の航空機は、明治時代以降、軍主導で研究されてきました。とはいえ実態は軍事というよりも学術的研究の臭いがプンプンします。

初めて空を飛んだ人は、米国ではライト兄弟ですが、日本人では徳川好敏、日野熊蔵の両陸軍大尉です。2人は欧州で技術を学び、持ち帰った飛行機で日本初の飛行実験を成功させたのです。その偉業は両者ともに称えられています。どちらかという家柄の良い徳川さんの方が注目されていたみたいです。

飛行実験は、ひとつ間違えると命を落とす危険性ははらんでいます。実際に飛行演習中に命を落とす人もいます。危険を冒してでも立ち止まらず、次の人々に引き継がれていることに“やらされている”感はありません。これこそ「ロマン」というものでしょう。

小生は館内で、飛行機とヘリコプターのフライトシミュレーションに挑戦しました。訪ねた日が夏休みも終わった頃の平日だったからか、館内は比較的空いていました。それを好機に、人目も憚らず何度もチャレンジしたのですが、ずっとしてほしかったほど楽しい体験でした。操縦は、なかなかむずかしい。初心者クラスは何とか合格できましたが、中級者クラスでは着陸が

ガタガタ、上級者クラスに至っては飛行すままならず警告ランプが鳴り止みませんでした。周りをふと見渡すと航空機オタクが小生と同じく操縦かんを必死に握っています。所沢と同じ埼玉県の大宮にある鉄道博物館では、山手線運転シミュレーションに夢中のオヤジ鉄オタを見かけますが、それに似たような光景です。やはり乗り物の運転は男のロマンなのでしょうか…。

後ろ髪を引かれつつ記念館を後にし所沢駅へ戻ってきました。駅舎の面構えの立派さに西武王国の城下町健在を感じます。何か名物はないかと探しますと「所沢うどん」が目にとまりました。炎天下の暑い日にお勧めの肉うどん、それも熱いものを頂きました。食



「所沢航空発祥記念館」には、敷地内にも館内にも「ロマン」がいっぱい

事中は平気でしたが、食後は服まで汗びっしょり。暑い時期は熱いものを食べると健康に良いと聞きますが、本日はちょっと後悔しました。でも味は最高でしたよ。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。